

各 位

平成30年8月15日
山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3
電話 023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ



「七草の庭」に咲き誇るオミナエシ

オミナエシ(スイカズラ科)

日当たりのよい山野に生える多年草で、草丈が80～120cmです。葉は対生し羽状に分裂し裂片は狭く、尖ります。茎は上部で枝分かれし、黄色の小さい花を多数つけます。秋の七草として有名な植物です。種子で増えるのはもちろん、地下茎を横に伸ばして増える栄養繁殖もします。そのために黄色い花がしばしば群生しています。満開になると独特な匂いがします。

真夏日が続くこの頃ですが、野草園は市街地より気温が2～3度低く、たくさんの樹木があり、風が吹くので過ごしやすさがあります。園内には沼や湿地、芝生の丘などもあり、樹木の下は日陰で涼しいので、散策や健康ウォーキングに大変適しています。

9月2日(日)に「お山フェス」が開催され、樹木が茂り芝生の生える「野草の丘」でコンサートを行います。飲食店やクラフト店も開きますので、食べながら音楽を楽しんで欲しいです。同時にヨガや野草園探検なども行いますので、是非、参加して下さい。

野草園ではもうすでに秋の花がたくさん咲いています。「七草の庭」は、秋の七草である青紫色のキキョウ、ピンク色のカワラナデシコ、黄色のオミナエシの花が咲き誇り、秋の花園になろうとしています。是非、秋の七草を見に来て下さい。

8月中旬から9月上旬までのイベント予定

◆【写真コンテスト作品募集】9/1(土)～9/21(金)

詳細はホームページをご覧ください。

◆【お山フェス】 9/2(日)

○内 容 コンサートやマルシェの開催

* プレゼント抽選券付き前売入園券 (300円) 販売中

「販売場所」野草園、紅の蔵、テルサ、ジャバ、山形市都市振興公社 (市役所11階)

「お山コンサート」

○時 間 11:00~15:00 ○場 所 野草の丘

○出演者 マカロニ (ギターなど) 神原瑤子氏 (マリンバ) 浅野託矢氏 (ピアノ)
堀謙太郎氏 (ギターひき語り) チェリーズ (オカリナ) ラ・ゴスカルゴ (ゴスペル)

「お山マルシェ」

○時 間 10:30~15:00 ○場 所 野草の丘

○飲食ブース出店名

ドーナツ小屋maaru (ドーナツ・かき氷) ヒマラヤカフェ (ネパールカレー)
こめやかた (米粉クレープなど) カフェフクダエン (抹茶ラテなど)
Umui (ベジタブルカレーなど) Ride4style (季節のフルーツシェイク、ホット
ドックなど) 里山 虹と森のカフェ (焼きそば・かき氷など) 石屋 (ラーメン)

○クラフトブース出店名

so-tennen (ウッドバーニング体験など) 78h (ニット小物・布小物など)
TATSUKO (カゴバッグなど) 風の呼 (まめじぞう・こけ盆栽など)

○体験ブース

大自然お山ヨガ (ヨガインストラクター 佐藤藍氏) 10:00~

虫博士とあそぼう 13:30~

野草園をたんけんしよう (30分程) 10:00~、11:00~、13:00~、14:00~

◆【東北南3県ボタニカルアート作品展】

○日 時 9/2(日)~9/24(月) 9:00~16:30 ※9/2は13:00から、9/24は15:00まで

○場 所 自然学習センター

○内 容 ボタニカルアート愛好者の作品を展示し、来園者に鑑賞して頂く。

◆【ボタニカルアート体験講座】

○日 時 9/8(土) 10:00~15:00 (昼食休憩あり)

○場 所 自然学習センター

○講 師 日本ボタニカルアート協会会員 杉崎紀世彦氏

○内 容 植物のデッサンと彩色、喫茶コーナーで昼食 (昼食代別) ○持ち物 不要

○対 象 先着15人 ○参加費 800円 (入園料別)

○申込み 電話で野草園まで TEL023-634-4120

◆【星空を見る会】

○日 時 9/9(日) 19:00~20:30

○場 所 自然学習センター前の中央広場

○講 師 「NPO法人 小さな天文学者の会」加藤 到氏

○内 容 夏の夜空に見られる星座の見つけ方を説明してもらったり、天体望遠鏡で惑星を見たりすることで、宇宙についての理解を深めて頂きます。

○対 象 先着25人 ○参加費は無料 (入園料別)

○申込み 電話で野草園まで TEL023-634-4120 *雨天の場合、中止となります。

◆【山野草の育て方教室】

- 日 時 9/11(火) 10:00~12:00
- 場 所 自然学習センターピロティ
- 講 師 蔵王園芸店 佐藤祐一 氏
- 内 容 カタクリ、セツブンソウ、オオミスミソウの鉢植え
- 対 象 先着13人 ○参加費 2,000円(材料代込、入園料別)
- 申込み 電話で野草園まで TEL023-634-4120

◆【ガイドウォーキング】

- 日 時 8/19(日)、26(日)、9/1(土)、8(土)、9(日)
1回目10:00~11:00、2回目11:00~12:00、3回目13:00~14:00、4回目14:00~15:00
- 内 容 ボランティアガイドと一緒に園内を散策します。申し込み不要、その場で参加できます。もちろん無料です。見頃の花の場所に案内し、その花の説明もします。

◆◆◆8月後半に見られる主な花たち◆◆◆



ツリフネソウ(ツリフネソウ科)

水辺に群生する1年草で、茎は赤みを帯び節はふくらみます。草丈は50cm程度で、茎の先に数個の花をつり下げます。花は紅紫色で、距は著しく後ろに突きでて渦巻き状になります。果実は熟すと果皮が裂けて種子を飛ばします。名は、花器の釣船を下げたように見えることからきたようです。



カワラナテシコ(ナテシコ科)

各地の山野に生える多年草です。葉は対生し、線形または披針形で基部は茎を少し抱きます。花茎の先に咲く淡紅紫色の花は優美です。秋の七草のひとつに数えられていますが、7月に咲き始めます。名の由来は河原のように日当たりの良い所に生え、可憐な花の様子を撫子に例えたようです。



キキョウ(キキョウ科)

日当たりの良い山地や野原などに生える多年草です。葉は長卵形で先は尖り、縁には鋸歯があります。茎の上部に青紫色の鐘形5裂の花を開きます。根は太く黄白色をしており薬用とされています。秋の七草でいうアサガオはキキョウのことだといわれています。



ハナトラノオ(シソ科)

北アメリカのバージニア州原産で大正時代に渡来したピンク色の花です。吸蜜昆虫が多く集まる花で、アゲハチョウの仲間も多く飛来します。草丈は40～120cm、四方に突き出すように花がつき、花穂が四角錐のようになるので別名「カクトラノオ」とも呼ばれます。



ヒオウギ (アヤメ科)

山地の原野に生える多年草です。観賞用としても栽培されています。葉は広い剣状で扇形に並び、多少白っぽいようです。夏に茎が何度も枝分かれし、枝の端に有柄の花をつけます。花被片は6個で水平に開き、楕円状でへら形、黄赤色で内側に濃い暗紅点が多数あります。名は、葉の並び方が桧扇に似ているのでつけられました。



ユウガギク(キク科)

近畿地方以北に生育し湿地やあぜに多い多年草で、高さ1～1.5mです。花は直径3～3.5cmの白色の舌状花と黄色の筒状花からなり、総苞は長さ5～6mmで冠毛は1mmです。いろいろあるヨメナ属の野菊の中では一番先に咲き始めます。「柚香菊」ですが、実際はあまり香らないようです。



マルバハギ (マメ科)

日当たりの良い山地に生える落葉低木です。葉は3出複葉で小葉は楕円形または倒卵形で先は丸いです。紅紫色の旗弁、濃紫色の翼弁、淡紅紫色の竜骨弁をもった蝶形花が密集して開きます。仲間のヤマハギとは、花序が葉よりも短かく、萼片が針状にとがり、翼弁が竜骨弁より長いことによって区別できます。



レンゲショウマ (キンポウゲ科)

本州の太平洋側などの深山に生える多年草で、日本特産の1つです。葉は大形で2～4回3出複葉で、小葉は卵形です。茎の上部に淡紫色の花をまばらに下向きにつけます。花の外側は花弁状の萼片で、内側にある花弁は先が紫色をしています。花がハスに、葉がサラシナショウマに似ていることからついた名のようなようです。



フシグロセンノウ (ナデシコ科)

山地に生える多年草です。茎の節は太く、紫黒色を帯びています。葉は対生し、卵形または楕円状披針形で先はとがり、ふちに毛があるようです。茎頂に橙色の花を開きます。花弁は5個で倒卵形です。仙翁とは京都嵯峨にある寺の名で、そこで栽培した仙翁という花と似ていて、節が黒いから本種の名になったといわれています。



オトコエシ (スイカズラ科)

山野に生える多年草で、茎に毛が多いようです。葉は対生し、多くは羽状に分裂、裂片は卵状長楕円形になります。茎の上部に小さい白花を散房状に多数つけます。果実は倒卵形でまわりが翼状になります。オミナエシに対して茎が太く毛があり強剛に見えるので、オトコエシと名がついたようです。



ツリガネニンジン(キキョウ科)

日当たりの良い山野の草地に生える多年草です。葉は楕円形で、3～4枚の輪生となります。高さ1m程の茎の上部に淡紫色の釣鐘形の花を数個、輪生に釣り下げます。萼は細くて、雌しべが花から突き出ています。大きな根は薬用に利用されます。名は花の姿を釣鐘に、大きな根を朝鮮人参に例えたからのようです。



ノカンムウ (ススキノキ科)

田のあぜや溝のふちなど、やや湿ったところに多い多年草です。葉は長く広線形です。葉の間から70～90cmの花茎を出して、上向きに花をつけます。1日花で橙赤色の花が昼間だけ咲くようです。花被片は6個でほとんど同形で長楕円形、上部の方だけ反り返って咲きます。



センニチコウ(ヒユ科)

古く日本に入ってきた園芸用の草花で、庭園に植えられています。熱帯地方原産の1年草です。茎の先に長い花茎をだし、その先に1個の球状の花をつけます。花は色のついた翼のある2個の小苞に包まれた多数の小花からできていて、小花は普通紅色ですがまれに淡紅色、または白いものがあります。名は花期が非常に長いのでつけられたようです。



ワレモコウ(バラ科)

山野に普通に生える多年草で、葉は互生し長柄があり、奇数羽状複葉です。小葉は5～13枚で長楕円形です。花は楕円形で、上から下へと開花します。花は花弁がなく4個の萼片が花弁のように見えます。萼片は暗紫色で雄しべは4個で葯は黒く萼片より短いようです。名は紋所のモコウからきたものといわれています。



カリガネソウ(シソ科)

山地や原野に生える多年草です。近くによると臭気がします。茎の断面は四角形で、葉は鋸歯のある広卵形で対生します。葉腋から長い柄を持つ集散花序を出して、紫色の唇形花をまばらに付けます。雄しべ、花柱ともに長くて、花冠から飛び出すのが特徴です。名は、花の形が雁(かり)の姿に似ることからです。



フジバカマ(キク科)

奈良時代に中国から渡来し、本州の関東地方以西、四国、九州などに野生する多年草です。葉は短い柄があって対生し、長楕円形～長楕円状披針形でふつう3深裂します。頭花は淡紅紫色で5個の筒状花があり、それが散房状にたくさんついています。秋の七草のひとつですが、野生は少なくなっているそうです。



アケボノソウ(リンドウ科)

山野の湿り気のあるところに生える2年草で、茎は直立して枝分かれます。葉は対生し、形は披針形です。合弁花ですが、白い花は深く5裂し、ほとんど離弁花に見えます。裂片には黄緑色の蜜腺溝が2個と黒紫色の斑点が多数あります。「曙草」の名は、花の色を明け方の空に見立て、斑点模様を夜明けの星々に見立てつけられたようです。



サラシナショウマ(キンポウゲ科)

落葉樹林内や草原などに生える多年草です。茎の先に総状花序を出し、柄のある白い小さな花を密につけます。花には両生花と雄花があり、萼片は楕円形で早落します。名は晒菜升麻で、若葉をゆでて水でさらして食べることでよります。根茎は肥大し、乾かしたものは生薬の升麻で解毒・解熱剤などにするそうです。